

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西外国語大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイガイコクゴダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	総合実習A～E(インターンシップ)
	学部・研究科等名	英語キャリア学部・外国語学部
	担当教職員名・役職	小谷 克則(英語キャリア学部教務部部長)・井尻 直志(外国語学部教務部部長)・キャリアセンター
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	381
	受入企業等数	204
受入企業等名	http://www.kansai.ac.jp/placement/support/internship/	
インターンシップの分類	2.有給インターンシップ 3.海外インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ホテルやテーマパーク等では現場実習を通じて、ゲストサービスや宿泊予約業務を体験する。業務全体の動きを把握し、国内外のお客様の記憶に残るサービスや宿泊予約の重要性を学ぶ。証券会社等の金融機関では、グループワークを通じて、金融ビジネスをシミュレーション体験する。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	実習時間数に応じて1単位～8単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた正課および正課外のキャリア・デザイン・プログラムのひとつとして、夏期休業期間中および春期休業期間中に1週間から4週間のインターンシップを実施している。インターンシップを通して社会人として必要とされる知識や態度を理解し、自分がどの程度それらを身につけているのか、今後どのように身につけていくのかを考える機会としている。	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	適宜メールでの報告や相談を受け付け、教職員が対応している。また、学生には実習日報を毎日記入し、現場責任者に判をもらうこととし、モニタリングに替えている。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	教職員が、インターンシップに参加する心構え、報告・連絡・相談のタイミングや重要性、ビジネスマナーや守秘義務の遵守についての研修を行い、実習参加前に調べておくべきことや目標設定をグループワークで実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習日報と実習報告書の作成を通して、インターンシップの振り返りを行っている。また、異なる実習先のインターンシップに参加した学生同士で、インターンシップで困難だったこと、その困難をどのように乗り越えたか、この経験をどのように生かしたいかをテーマにグループワークを実施している。希望者のみインターンシップ参加希望者対象に行う説明会において体験発表をさせている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	適宜メールでの報告や相談を受け付け、教職員が対応している。また、学生には実習日報を毎日記入し、現場責任者に判をもらうこととし、モニタリングに替えている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前研修での目標設定と実習後の報告書作成を通して、学生の働くことへの意識や業界・企業理解の変化を確認している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間1週間から4週間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	夏期休業期間中および春期休業期間中において、銀行や信用金庫、市役所等では1週間から2週間、ホテルやテーマパーク、旅行会社等では2週間から4週間の実習を実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実習内容の設計にあたっては、大学で募集要項の雛形を作成し、実習内容を明確にしている。また、企業担当者に学生の評価報告書の作成を依頼し、単位認定の際の参考としている。評価項目は、理解力、表現力、積極性、協調性、責任感、マナーの6項目で、各項目5段階評価と所見の記入を依頼している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://rapport2.kansai.ac.jp/syllabus/GUSW1000Login.do
問い合わせ先	大学等名	関西外国語大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	
	担当者氏名	岡田 京子
	電話番号	072-805-2851
	メールアドレス	cc-intern@kansai.ac.jp